

令和 3 年 6 月 11 日現在

機関番号：32607

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04461

研究課題名(和文) 高齢心不全患者の重症度に応じた在宅療養移行・継続支援プログラムの開発と検証

研究課題名(英文) Development of the transition of care programs according to the disease severity in elderly patients with heart failure

研究代表者

眞茅 みゆき (Makaya, Miyuki)

北里大学・看護学部・教授

研究者番号：60415552

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では心不全患者が自宅で生活し続けられることへ支援することを目指し、患者とその家族への支援プログラムを構築した。心不全患者の在宅生活における問題点から、セルフケアの支援とともに、特に重症化した患者では症状を正しく評価し対応する症状マネジメントへの支援が必要であることが明らかとなった。家族に対しては、患者の支援に必要な支援技術に関する情報提供や介護負担を軽減するための支援が必要であることが明らかとなった。これらの結果を踏まえ、コーチング理論を基盤とし、患者の症状マネジメントへの支援および家族への支援技術に関する情報提供と介護評価に応じた支援を核とするプログラムを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

心不全患者の在宅療養の継続において、患者の重症度を踏まえ、特に自宅での症状マネジメントの重要性を明らかにした点は学術的意義があると考えられる。患者への支援のみならず、家族への支援の重要性を提言することができた。心不全患者の家族が抱える患者を支援する上での困難さや身体的・精神的負担への支援への必要性を示したことは意義が大きい。さらに、これらの点は2021年 日本循環器学会/日本心不全学会合同 ガイドライン フォーカスアップデート版 急性・慢性心不全診療に記載され、社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：We developed a support program for patients and their families with the aim of helping heart failure patients to continue living at home in this study. From the problems of heart failure patients living at home, it became clear that support for self-care as well as support for symptom management is necessary, especially for severe heart failure patients. For family members, it became clear that they need to be provided with information on assistive skills and support to reduce the burden of caring for the patient with heart failure. Based on these results, we developed a program based on coaching theory, focusing on support for patients' symptom management, information on support skills for family members, and support according to caregiving appraisal.

研究分野：在宅看護学

キーワード：心不全 在宅移行支援 症状マネジメント 介護評価

1. 研究開始当初の背景

心不全の治療や管理方法の進歩により、入院治療を終えた後、自宅で生活する心不全患者が増加しており、臨床現場では心不全患者の在宅移行支援および在宅生活の支援方法の確立が求められている。治療成績の向上により在宅療養が可能な高齢心不全患者が増加する中、増悪による再入院率の高さが在宅療養移行および継続の障壁となっている。再入院の回避には、減塩や服薬などの「自己管理への支援」に加え、重症化予防のための「医療支援」と自己管理行動を支える「生活支援」が必要であるが、これらは心不全の重症度の影響を受けることから、在宅療養支援を複雑化させている。具体的には、心不全では病態の重症度により、在宅療養移行・継続に必要な「生活支援」と「医療支援」の内容、程度が大きく異なる上、認知機能障害を有する患者や多疾患を重複する患者が増加し、より個別性の高い支援が求められている。さらに心不全患者および家族は急性増悪や突然死のリスクに向き合うことによる心理的負担も大きい。これらの背景から、効果的な在宅療養移行ならびに継続支援の構築においては、患者の重症度を評価した上で、患者および家族介護者が在宅療養の実現のために求める具体的支援内容を明らかにする必要がある。このような問題を明らかにしたうえで、効果的かつ実施可能な在宅療養移行・継続のための支援プログラムを構築することが求められる。

2. 研究の目的

本研究では、高齢心不全患者および家族介護者が在宅療養で必要とする支援内容を心不全の重症度に応じて、医療支援と生活支援の観点から、文献レビューならびに調査研究により明らかにする。これらの結果に基づき、慢性心不全看護認定看護師、退院調整看護師、訪問看護師らによる、重症度に応じた在宅療養移行・継続支援プログラムを開発し、その実施可能性を検証する。

3. 研究の方法

外来通院する心不全患者を対象に、心不全患者の自宅での自己管理行動の実態および在宅生活中に経験した症状に関する経験に関する調査研究を実施した。

心不全患者の介護者における介護評価に関するナラティブレビューを実施した。

心不全患者とその家族を対象に、家族介護者が実施している患者の療養生活への支援内容に関する調査を実施した。

上記の結果を踏まえ、心不全重症度を考慮した在宅療養移行・継続支援プログラムを開発し、その実施可能性を検証した。

4. 研究成果

心不全患者の自己管理行動の中でも、重症化した心不全患者の心不全増悪の早期発見に

重要な役割を果たす症状マネジメントについて、心不全患者 109 名を対象に調査した結果、症状マネジメントの一つである受診行動を遅らせる要因として、知覚していた症状の中に倦怠感があること、年齢が若いことが関連していた。患者が急性増悪時の症状にどのように気づいているかがその後の評価、対処行動に影響している可能性があり、患者が経験している症状をより詳細に理解するための研究が必要であることが示された。この結果を受け、心不全患者が急性増悪時に気づいていた身体の変化を患者自身がどのように認識し、どのように表現するのかを明らかにするためのインタビュー調査を実施し、テキストマイニングによる内容分析を実施した。その結果、心不全患者が急性増悪時に気づいていた身体の変化についての表現の多様性、種類の全体像が明らかとなった。また、在宅療養する心不全患者が日常的に経験する症状である倦怠感について、患者、家族への教育や支援が重要であることも示唆された。

心不全患者の家族への支援方法の基盤となる情報を得るため、心不全患者の介護者における介護評価に関する 1467 論文を対象にナラティブレビューを実施した。その結果、心不全患者の介護者における介護の経験は、否定的 / 肯定的な側面双方を認識し、評価していた。これらの側面には心不全の臨床的要因をはじめ、患者および / または介護者の身体的・精神的脆弱性、患者と介護者との関係性や社会的支援など、多様な要因の影響を受けていた。以上の結果から、心不全患者の介護者における介護に対する否定的 / 肯定的な側面双方を理解し、評価していくことの重要性が示唆された。

心不全患者の家族介護者における肯定的・否定的側面の実態を調査した結果、肯定的な側面を評価する「ケアに対する受けとめ」は良好であった。否定的な側面を評価する項目の中で最も点数が高かったのは、「日常生活への影響」であり、次いで「健康への影響」、「家族からのサポートの欠如」、「経済的な影響」の順であった。心不全患者の家族介護者の肯定的な側面に関連する要因として、家族介護者の健康関連 QOL の「身体的健康」が示された。否定的な側面の関連要因として「1 日当たりの介護時間」「疾患に関する活動の支援；頻度」が最も関連する要因であった。一方でこれらの結果は心不全患者の重症度の影響は受けないこともわかり、心不全患者の重症度に関わらず家族介護者への支援が必要であることが示唆された。さらに、心不全患者と家族介護者 103 名を対象に、CC-SCHFI を用いて家族の患者のセルフケア支援行動とその関連要因を分析した結果、セルフケアの維持には家族介護者の「自己効力感」が関連しており、また症状認知には「収入」「自己効力感」「大切な人のサポート」が、セルフケアの管理には「収入」「自己効力感」が関連していた。家族介護者の自己効力感やソーシャルサポートを強化するための支援することにより、心不全患者のセルフケア支援行動が向上する可能性があることが示された。

上記の結果を基盤に、心不全患者が自宅で生活し続けられることへ支援することを目指し、看護師、慢性心不全看護認定看護師、訪問看護師等を交えた複数回のフォーカスグループディスカッションを実施し、患者とその家族に対するコーチング理論を基盤とした支援プログラムを構築し、心不全診療を行う医療機関に勤務する看護職の協力を得て、本プログ

ラムの実施可能性を確認した。具体的には、患者、家族、医療者の三者が、患者の心不全の重症度を理解、共有した上で、在宅療養におけるセルフケアの目標を明確化し、在宅療養中のケア計画の立案を行う。患者に対しては、従来の心不全患者のセルフケアに対する教育支援とともに、特に重症化した患者では症状を評価し受診行動につなげるための症状マネジメントに関する教育を強化する。家族に対しては、患者の支援に必要な支援技術に関する情報を提供するとともに、介護負担を軽減するために、立案したケア計画を実践していくための問題解決方法を看護職とともに検討する。さらに、家族介護者の精神的負担を軽減し、自己効力感を高めるための看護師によるサポートをプログラムに組み入れた。

本研究課題の後半はコロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた結果、本プログラムの実施可能性を確認する過程で、本プログラムの運用に情報通信技術の活用が必要であることを痛感した。テレナーシングやモバイルテクノロジーを利用した本プログラムの運用の検討が今後の重要な課題と考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石田洋子, 眞茅みゆき.	4. 巻 14
2. 論文標題 心不全患者のfatigueに関する研究の現状と課題：ナラティブレビュー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本緩和医療学会誌	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 眞茅みゆき	4. 巻 134
2. 論文標題 心不全手帳の改訂ポイントと活用法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床栄養	6. 最初と最後の頁 478-482
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 眞茅みゆき	4. 巻 64
2. 論文標題 病院から在宅をつなぐ心不全のトータルケア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護技術	6. 最初と最後の頁 1126-1131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 眞茅みゆき	4. 巻 266
2. 論文標題 日本と世界の心不全の疫学 心不全の現在と未来を識る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 1022-1028
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 眞茅みゆき、松岡志帆	4. 巻 83
2. 論文標題 心不全疾病管理とヘルスリテラシー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 循環器内科	6. 最初と最後の頁 190-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林田希子、岡田明子、眞茅みゆき	4. 巻 50
2. 論文標題 心不全患者の服薬行動に関する研究の動向と課題 Systematic Reviewからの考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心臓	6. 最初と最後の頁 152-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 眞茅みゆき	4. 巻 24
2. 論文標題 【高血圧・循環器病予防療養指導士】 活躍の場 心不全予防の取り組みとチーム医療の必要性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 血圧	6. 最初と最後の頁 152-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田明子、眞茅みゆき	4. 巻 7
2. 論文標題 【循環器疾患患者さんとフレイル・サルコペニア】 循環器疾患患者におけるサルコペニア・フレイルのケア	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 循環器ナーシング	6. 最初と最後の頁 62-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野美樹、眞茅みゆき	4. 巻 16
2. 論文標題 循環器疾患患者・家族の意思決定支援：生きる希望を失くした患者と一日でも長く生きて欲しいと願う家族への意思決定支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本循環器看護学会誌	6. 最初と最後の頁 5-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野美樹、眞茅みゆき	4. 巻 24
2. 論文標題 心不全患者の介護者の介護評価に関するスコーピングレビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 52-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tokunaga-Nakawatase Y, Ochiai R, Sanjo M, Tsuchihashi-Makaya M, Miyashita M, Ishikawa T, Watabe S	4. 巻 9
2. 論文標題 Perceptions of physicians and nurses concerning advanced care planning for patients with heart failure in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ann Palliat Med	6. 最初と最後の頁 1718-1731
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto K, Tsuchihashi-Makaya M, Kinugasa Y, Iida Y, Kamiya K, Kihara Y, Kono Y, Sato Y, Suzuki N, Takeuchi H, Higo T, Miyazawa Y, Miyajima I, Yamashina A, Yoshita K, Washida K, Kuzuya M, Takahashi T, Nakaya Y, Hasebe N, Tsutsui H	4. 巻 84
2. 論文標題 Japanese Heart Failure Society 2018 Scientific Statement on Nutritional Assessment and Management in Heart Failure Patients	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Circulation Journal	6. 最初と最後の頁 1408-1444
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaniya K, Sato Y, Takahashi T, Tsuchihashi-Makaya M, Kotooka N, Ikegame T, Takura T, Yamamoto T, Nagayama M, Goto Y, Makita S, Isobe M	4. 巻 13
2. 論文標題 Multidisciplinary Cardiac Rehabilitation and Long-Term Prognosis in Patients With Heart Failure.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Circulation Heart Failure	6. 最初と最後の頁 e00679
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Akiko Hayashi, Akiko Okada, Shinya Ito, Noriko Nagao, Miyuki Makaya
2. 発表標題 A synergistic association of self-efficacy and anxiety with medical adherence of patients with heart failure in the community-dwelling
3. 学会等名 American Heart Association 's Scientific Sessions 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroko Ishida, Miyuki Makaya, Akiko Okada
2. 発表標題 The effective interventions in the promotion of self-care in patients with heart failure
3. 学会等名 The 9th Asian Pacific Congress of Heart Failure (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石田洋子, 眞茅みゆき
2. 発表標題 心不全患者と家族の心理的問題に対する看護介入
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 眞茅みゆき
2. 発表標題 社会に生きる心疾患患者とその家族を支援するための新たなGeneralistとしての視点
3. 学会等名 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平野美樹, 森谷栄子, 岡田明子, 眞茅みゆき
2. 発表標題 心不全患者の介護者に関する文献レビュー
3. 学会等名 第23回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 眞茅みゆき
2. 発表標題 高齢心不全患者の在宅療養継続を実現する施設間連携の現状と課題
3. 学会等名 第60回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyuki Makaya
2. 発表標題 Comprehensive, integrated approach to support elderly patients with heart failure and their caregivers across multiple care environments
3. 学会等名 第82回日本循環器学会学術集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 眞茅みゆき、森谷栄子
2. 発表標題 「高血圧予防の新展開 高血圧・循環器病予防療養指導士への期待と課題」 高血圧・循環器病予防療養指導士への期待と課題 看護職の立場から
3. 学会等名 第53回日本循環器病予防学会学術集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 眞茅みゆき
2. 発表標題 地域包括ケア時代の心不全患者と家族を支える疾病管理：目指すべきアウトカムは何か？
3. 学会等名 第21回日本心不全学会学術集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Miyuki Makaya
2. 発表標題 Cognitive impairment and heart failure: the need for new management approach
3. 学会等名 第21回日本心不全学会学術集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 坂真砂子、小松美祐紀、松井幸子、木間美津子、松岡志帆、中津川悦子、石田洋子、眞茅みゆき
2. 発表標題 心不全患者の家族介護者の介護頻度および介護負担：介護者の続柄から見た検討
3. 学会等名 第21回日本心不全学会学術集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 中津川悦子、松岡志帆、茅根貴博、石田洋子、坂真砂子、眞茅みゆき
2. 発表標題 慢性心不全患者の家族介護者の介護負担とQuality of life.
3. 学会等名 第21回日本心不全学会学術集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 眞茅みゆき、松岡志帆、森谷栄子、坂真砂子、石田洋子、中津川悦子.
2. 発表標題 在宅で療養する慢性心不全患者の家族介護者の介護負担の実態
3. 学会等名 第22回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Hiroyuki Ishida, Shiho Matsuoka, Miyuki Makaya
2. 発表標題 Health literacy of heart failure patients and their caregivers is independently associated with caregiver burden.
3. 学会等名 American Heart Association Scientific Meeting 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 眞茅みゆき
2. 発表標題 地域包括ケア時代の高齢心不全患者・家族の在宅療養移行支援のあり方.
3. 学会等名 日本循環器学会 第124回近畿地方会 教育講演(招待講演)
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 眞茅みゆき
2. 発表標題 地域で暮らす慢性心疾患患者の治療実態と治療継続における看護の役割
3. 学会等名 第11回日本慢性看護学会学術集会 ランチョンセミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Akiko Okada, Ryota Ochiai, Miyuki Makaya
2. 発表標題 Somatic changes experienced by patients with heart failure during acute exacerbation: A qualitative text mining analysis
3. 学会等名 EuroHeartCare - ACNAP Congress 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroko Ishida, Miyuki Tsuchihashi-Makaya
2. 発表標題 The severity and related factors of multidimensional fatigue in patients with heart failure
3. 学会等名 85th Japanese Circulation Society Scientific Meeting（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田明子、眞茅みゆき
2. 発表標題 自宅で療養する心不全患者が望む生活を維持するための支援
3. 学会等名 第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 眞茅みゆき
2. 発表標題 新たな時代の心不全チーム医療：新たなチーム医療の姿を考える
3. 学会等名 第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平野美樹、眞茅みゆき
2. 発表標題 心臓病患者の患者指導と地域連携 ～理想と現実～
3. 学会等名 第68回日本心臓病学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 眞茅みゆき，筒井裕之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 心不全を識る - 心不全の基礎 疫学・循環器内科専門医バイブル 心不全	

1. 著者名 眞茅 みゆき	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 250
3. 書名 進展ステージ別に理解する 心不全看護	

1. 著者名 眞茅みゆき	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メディカルサイエンスインターナショナル	5. 総ページ数 424
3. 書名 心不全ケア教本 第2版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大津 美香 (Ohtsu Haruka) (10382384)	弘前大学・保健学研究科・准教授 (11101)	
研究分担者	小山 幸代 (Koyama Sachiyo) (70153690)	北里大学・看護学部・教授 (32607)	
研究分担者	森谷 栄子 (Moriya Eiko) (70348598)	北里大学・看護学部・講師 (32607)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------